

平成24年度病害虫発生予報第10号

平成24年12月6日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	発生時期	予想発生量
野菜	ラッキョウ	白色疫病	平年並	平年並
	イチゴ	うどんこ病	平年並	平年並
		灰色かび病	平年並	平年並

気象予報（抜粋）

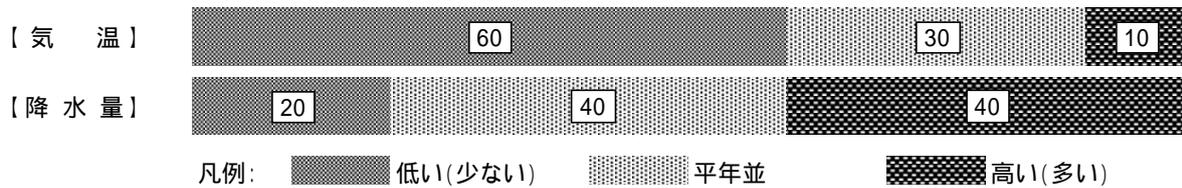
1か月予報（12月1日～12月30日：11月30日、広島地方气象台発表）

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

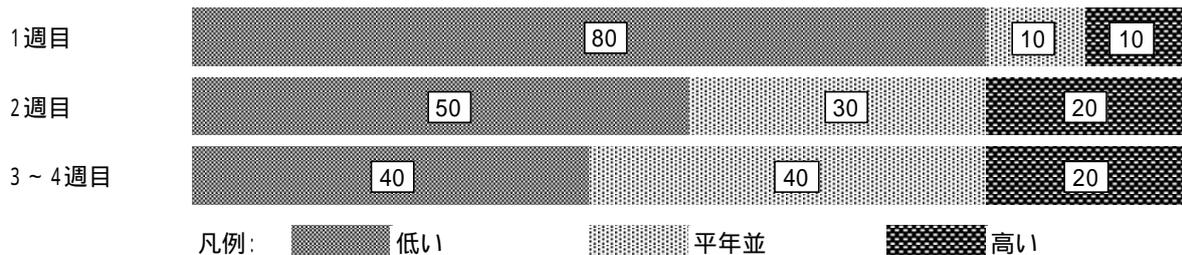
期間の前半は、気温がかなり低くなる見込みです。また、期間の前半は山沿いを中心にこの時期としては降雪量が多く、かなり多くなる可能性があります。

平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



野菜

[ラッキョウ]

1 白色疫病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、県東部及び中部の現地調査ほ場における発生量は平年と比べてやや少ない。

イ 本病は、晩秋から初春の連続降雨や積雪により発病が多くなる。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想されるが、今後の降雪状況によっては多発する可能性があるので注意する。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ほ場の排水対策とともに、年内の薬剤防除を徹底する。

イ 薬剤防除は、発病前からの予防散布が効果的である。12月中～下旬にはフォリオゴールド1,000倍液、ホライズンドライフロアブル1,000倍液などを散布する。

ウ 1～2月の連続降雨後及び雪解け時に、フォリオゴールド1,000倍液、ホライズンドライフロアブル1,000倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液などを追加散布する。

エ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一成分の薬剤の連用は避ける。

[イチゴ]

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発後の防除は難しいため、予防防除に重点を置く。薬剤は、表1を参考に使用する。

イ 既に本ほ場で発生している場合は、薬剤を3～5日間隔で替えて輪番散布する。その後、病勢が抑制されれば、7～10日間隔の薬剤散布に戻す。

ウ QoI剤（アミスター20フロアブル及びストロビーフロアブル）は、機能性展着剤と混用すると薬害がでやすいので、これらの展着剤は加用しない。

エ DMI剤（ラリー水和剤など）を使用する際は、カリグリーンなどを混用すると防除効果が高まる。

オ 硫黄粒剤のくん煙処理は、発病後の効果は低いため、発病前からの予防的な処理を行う。

カ 薬剤散布は、薬液が葉裏や芽の間にもよくかかるように丁寧に行う。

キ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表1 イチゴうどんこ病の本圃における主な防除薬剤

農薬系統分類	薬 剤 名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前 日数	効果	
					予防	治療
無機硫黄	硫黄粒剤	6～16g/2000m ³	-	-		
	イオフロアブル	500～1,000倍	-	-		
有機銅	サンヨール	500～1,000倍	6	前日		
アクリル・リジン系	フルビカフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日		
	フルビカくん煙剤	50g/500m ³		前日		
グアニジン系	ベルケート水和剤	4,000倍	2	前日		
	ベルケートフロアブル	2,000～4,000倍		前日		
グアニジン系・ ヒドロキシアニリド系	ダイマジン	2,000倍	2	前日		
S D H I 剤	アフェットフロアブル	2,000倍	3	前日		
Q o I 剤	アミスター20フロアブル	1,500～2,000倍	3	前日		
	ストビーフロアブル	3,000～5,000倍	3	前日		
D M I 剤	ラリー水和剤	4,000～8,000倍	3	前日		
	ルビゲン水和剤	4,000倍	3	前日		
	ハイクォール水和剤	5,000倍	3	前日		
	トリフィン水和剤	3,000～5,000倍	5	前日		
	トリフィンジェット	50g/400m ³		前日		
	スコア顆粒水和剤	2,000倍	3	前日		
	パンチョTF顆粒水和剤	2,000倍	2	前日		
	パンチョTFジェット	50g/400m ³		前日		
キノキサリン系	モレスタン水和剤	3,000～4,000倍	2	前日		
脂肪酸グリセリド	サンクリスタル乳剤	300～600倍	-	前日		
無機化合物	ジーンファイン水和剤	750～1,000倍	-	前日		
	カリグリーン	800～1,000倍	-	前日		
	ハーモイト水溶剤	800～1,000倍	-	前日		

2 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在の発生量はやや少なく、発生が多くなるのは平年並の3～4月頃と予想される。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 枯れた下葉や病果は早めに除去する。

イ ハウス内が20 前後で多湿になると多発しやすいので、随時、通風換気を行い、必要以上の灌水は避ける。

ウ 使用する薬剤は、表2を参考に7～10日間隔で輪番散布する。

エ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表2 イチゴ灰色かび病の本圃における主な防除薬剤

農薬系統分類	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前日数
有機銅	サンヨール	500倍	6	前日
アズリルピリミジン系	フルビカフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日
	フルビカくん煙剤	50g/500m ³		前日
ジカボキミト系	ロラル水和剤	1,500倍	4	前日
	ロラル500アケア	1,000～1,500倍		前日
	ロラルくん煙剤	100g/300～400m ³		前日
	スレックス水和剤	2,000倍	3	前日
	スレックスくん煙顆粒	6g/100m ³		前日
SDHI剤	カンタストライフロアブル	1,000～1,500倍	3	前日
	アフェットフロアブル	2,000倍	3	前日
QoI剤	アミスター20フロアブル	1,500倍	3	前日
フェニルピロール系	セビアフロアブル20	1,000～1,500倍	3	前日
フェニルピロール系・ヒドロキシアニリド系	ジャストミート顆粒水和剤	2,000～3,000倍	3	前日
グアニジン系	ヘルクトフロアブル	2,000倍	2	前日
グアニジン系・ヒドロキシアニリド系	ダイマジン	2,000倍	2	前日